



Title	天の愛でし人：有馬撰蔵小伝
Author(s)	中西, 秀樹
Citation	makoto. 1980, 30, p. 7-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86110
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

天の愛でし人——有馬撰蔵小伝

大阪府泉大津保健所

中西 秀 樹

夏目漱石の「猫」の中、苦沙彌先生が、自分のあばた面をしげしげと眺める場面がある。この本の書かれた明治三十七年においても、このように天然痘が猛威をふるっていた。それ以前、種痘法がまだもたらされない時代にあつては、天然痘は、かかればほとんど死をまぬがれ得ない大病であり、運良く生き残つたとしても顔に醜いあばたが残る。このような時代、「あばたもえくぼ」という言葉は、今日では思いもよらぬほどの痛切な響きを持っていたのである。今回機会を得たので、日本における種痘の先覚者の一人、有馬撰蔵について紹介したい。

有馬撰蔵は、東讃州の人で緒方洪庵の適塾に入門した。今日残されている門人帳の先頭に「東讃州寒河郡富田中村 有馬衛門三郎男同苗撰蔵名文杖」と署名している人である。この様に、適塾の初期からの門人であつたが、非常な秀才で緒方郁藏、伊藤慎蔵と共に洪庵門下の三

蔵と並び称せられた人でもある。さて、師洪庵の妻は八重といひ、撰津国名塩（現西宮市名塩）の出身で、洪庵が学んだ天游塾の先輩億川百記の娘であつたが、百記は自分の後取りがいずれも病弱であつたため、行く末心細く思ひ、有馬撰蔵の秀才ぶりを見込んで養子として迎えたのであつた。しかし運命の皮肉は、弘化四年（一八四七）京都に遊学中の撰蔵の急死によつてもたらされるのである。死因は病死であつたようである。同じ門人帳に別人の手で「後為先生家之義弟以病斃于京師」と書かれているからである。享年三十才であつた。彼の夭折をいたんだ洪庵の歌が伝えられている。

有馬うしのゆくりなくうせ玉
ひしを惜みて
いどなほ光やそへむ夕顔の
花にやどれる露も消えずば

日本に痘苗がもたらされたのは、嘉永二年（一八四九）オランダ人医師オットー・モーニッ

ケが、越前藩主・松平春嶽侯の依頼により取りよせたものが、その最初である。これを、緒方洪庵が入手し、大和屋伝兵衛の援助により同年十一月に大阪古手町に除痘館を開いた。万延元年（一八六〇）には、手狭になつたため尼崎町（現在の今橋三丁目、緒方産婦人科病院の敷地にあたる）に移転したのである。

この除痘館は、安政五年（一八五八）最初の官許の種痘所となり、その後の日本の予防医学史に大きな足跡を残すのである。このような洪庵の種痘事業に感化されたのであろうか、有馬撰蔵の業績として今日知られているものに、緒方郁蔵訳の散花錦囊に寄せた序文の他に、ドイツの H. J. Goldschmidt の著した種痘書のオランダ訳である Allgemeine beschouwing van de geschiedenis der Koepken を訳した午痘新書がある。この書は、当時大変な注目をあびたのであろう、たとえば京都大学富士川文庫に所蔵の当時の医学

書生達が筆写した二種の写本に、それをうかがうことができる。有馬撰蔵が、どんな決意で種痘に関わることになったのか、今では知るすべもないが、ただ彼の師洪庵に種痘を読んだ歌があり、当時の蘭医達の願いを説きとることができる。

世の人の数はます／＼ます鏡
むかふにはづるおもひなく
して

年毎におひそふ野辺の小松原
千代に繁れとうるもかさね
む

先頃 WHO により、天然痘の終息が宣言されたが、我が国においてもこのような天然痘の撲滅に賭けた青春のあつたことを忘れてはならないのである。

参考文献

億川撰三 緒方洪庵門下の三蔵

伴 忠康 医譚

適塾をめぐる人々

創元社

長濃丈夫 西宮市名塩史 名塩自治会
緒方富雄 緒方洪庵伝 岩波書店

府政だより

大阪府衛生部では次の主な行事が行われる予定です。

○狂犬病予防月間 4 月中

○不正大麻、けし撲滅運動 5 月中

○ゴキブリ駆除強調月間 6 月中

○性病予防月間 6 月中

○農薬危害防止運動 6 月中

○歯の衛生週間 6 月 4 日～10 日

○らいを正しく理解する週間 6 月 24 日～30 日

感謝状

敬啟者、大阪府衛生部 殿
理事長 辻野直三郎 様
あひだは健康で明るい住みよい地域
社会の建設に目的とする事会の趣旨に
賛同し、事業の推進にたいし多年にわ
たりご協力を賜り地域の公衆衛生の
向上に大に寄与されまゝなつて第
26 回府政大会にたいし感謝の意を
表ししす
昭和 55 年 3 月 11 日
社団法人 大阪府産婦人科学会
会長 松村栄子

第二十六回大阪府衛生婦人奉仕大会において、当協会辻野理事長に、社団法人大阪府衛生婦人奉仕会から上掲の感謝状が贈られました。